

様式2 令和3年度 清瀬市立清瀬第七小学校 学校評価表						
学校教育目標			育成を目指す資質・能力及び特色ある教育活動			
○健康で強い子 ○思いやりのある子 ◎よく考える子			【育成を目指す資質・能力】 ○健康で強い子…すすんで健康保持増進に努める意欲、基礎的な運動の技能、健康についての知識 ○思いやりのある子…他者の気持ちを理解する力、共感できる力、他者との違いを認める力 ◎よく考える子…基礎的な知識・技能、論理的思考力、問題発見・解決能力、自分の思いや考えを豊かに表現する力			
目指す学校像（ビジョン）			【特色ある教育活動】 ◎学校図書館を活用した問題解決能力の育成…調べ学習室の充実と活用、タブレット端末などICT機器の活用促進 ◎障害者理解の促進…通常学級と特別支援学級との交流学習、特別支援教室についての情報発信			
【目指す学校像】 向学心あふれる学校 保護者、地域と力を合わせて子供を育てる学校						
【目指す児童像】 互いに認め合い、支え合い、高め合う児童						
【目指す教師像】 向上心をもち、自分の指導に誇りをもてる教師						
前年度までの学校経営上の成果と課題			【成果】○学年×１０分の家庭学習を８割の家庭で実施（家庭学習の定着） ○カリキュラムマネジメントの視点からの年間指導計画の改善 ○調べ学習室やタブレット端末の日常的な活用 ○学校ホームページによる情報発信の定着 【課題】○タブレット端末の活用の一層の促進（問題解決能力及び情報活用能力の育成） ○体育授業、体力向上の取り組みの一層の充実（体力向上） ○特別支援教育のさらなる充実および保護者への啓発促進 ○学校支援本部（ななサボ）と連携した地域素材・人材を生かした活動の充実			
柱	具体的方策	自己評価		学校関係者評価	次年度以降の改善方策	
		取組指標	成果指標	課題及び次年度以降の改善方策（案）	学校関係者による「自己評価」についての評価	学校関係者評価の結果を踏まえた改善方策
確かな学力の向上	授業改善推進プランの作成などを通して授業改善を行い、児童の学習に対する満足度を高める。	4	3	学力調査の結果を基に、授業改善推進プランを作成し、授業改善に取り組んできた。また、校内研究では「情報活用能力を生かして学び合う児童の育成」という研究主題をたてて授業づくりを行ってきた。その結果、８７％の児童が学ぶことの喜びや楽しさを感じている。今後も児童が意欲的に学ぶことができるよう授業改善への取組を継続していく。	・子供が興味をもったことを調べるだけでなく、その学び方について意見を说出合うことをやってほしい。 ・比較的自由にタブレットに触れることができる環境がよかった。 ・子供の授業に対する満足度が高いのは、コロナ禍での先生方の工夫を感じられる。	主体的、対話的で深い学びができるよう授業改善を行い、子供たちの授業の満足度を高めることができた。学校関係者評価を踏まえ、学びの過程や、学んだことの活用も大切にしながら、校内研究や授業改善推進プランの作成、研究夕食会などを通して次年度も授業改善に取り組む。次年度教員全員が研究授業を行い、更なる授業改善を進める。タブレット端末は、子供たちに資質・能力を身に付けさせるツールとして今年度以上に活用させる。
	児童が家庭学習に（学年×１０分以上）取り組めるよう、内容や分量などを精選する。	4	2	全学級で毎日家庭学習の提供を行った。提出率は９０％で、ほとんどの児童が毎日家庭学習に取り組んでいる。しかし、学年×１０分以上の時間を家庭学習に取り組んだ児童は約７４％だった。高学年にはドリル学習だけでなく、自分で課題を決めて取り組む自主学習にも取り組ませている。時間も大切だが、どのように取り組めばよいか、内容を充実させるような指導が必要である。	・家庭学習を提出するやり取りを通して学校とのつながりを大切にしている。 ・課題提出率向上は大事だが、学年×１０分を目指すのは今とどこなのだろうか。量より質が大切。 ・やる子とやらない子の差が激しそうだ。人まねではなく個人の興味を生かせるようなサポートが必要。	家庭学習の更なる充実に向けて、低学年は分量を調整したり、取り組み方を丁寧に教えたりして習慣付けられるようにする。中学年以上は、基礎的・基本的内容の定着と、それぞれの興味・関心を広げたり深めたりできるような家庭学習の取組について各学級で指導を行い、家庭学習を充実させる。
豊かな心の育成	登下校時のあいさつ励行や来客への会釈など、継続的な生活指導の実践を行う。	4	3	「やや不十分」の回答が多いことから、「もうひといき努力できる、できる時はできるができないときもある」と感じている児童が多い。継続的な学級指導と同時に、あいさつ運動などの取組をさらに充実させる工夫や教員としての取組を今後も継続していく。	・こちらが挨拶をするると返してくれる子供が多いです。 ・あいさつ運動を代表委員が取り組んでいるのを知り、七小の伝統としてよいことだと思った。 ・挨拶を奨励する理由をどのように子供に伝えているか知りた。この程度の達成度で十分だと思う。	次年度も挨拶について各学級で継続的に指導を行う。また、挨拶の大切さについて、ふれあい月間やあいさつ運動の期間に生活指導部が中心となって指導を行う。代表委員会のあいさつ運動について、さらに充実した活動内容となるよう、子供たちの創意工夫を生かしながら取り組んでいく。
	道徳授業、体験的活動を学期に３回以上行い、人権や人とのふれあいにに対する意識を高めていく。	4	1	成果指標は「１」となったが、「わからない」を抜くと、８割を超える。体験的活動はこのコロナ禍で選択肢が減るところであるが、取組指標に現れたように道徳や人権教育は大切に行っている。しかしその発信が不十分であるということがわかる。今後は、HPや学級通信などを活用しながら発信していく、家庭でも人との関わり合いについて考えたり話し合ったりできるようにしていきたい。	・「わからない」という回答が多い。アピールが必要。 ・HP内の道徳に関する部分が探しにくい。 ・人権教育について話を聞くことがないので、学校からの発信が必要だと感じる。 ・体験的活動の機会が少なくなってしまったのは本当に残念。	第４学年の認知症サポーター養成講座や第６学年のハンセン病学習などを通して人権教育を行っているが、そのような体験・見学活動だけで人権感覚は高められるものではない。本校では教育活動全体を通して人権感覚を高められるような指導を行っているので、次年度は学校だよりや学年だより、HPで人権教育に関する特集を組み、保護者、地域に情報発信を行う。
健やかな体の育成	晴れた日の休み時間での外遊びを励行し、朝遊びの時間も活用しながら、児童の体力の向上を図る。	3	3	今年度は、コロナ禍であるだけでなく、音楽会準備などで、休み時間に校舎内で過ごすことが多かった。来年度は「タブレットのきまり」を定着させることにより、休み時間には室内に留まらずに外遊びをするよう励行するとともに、遊び方の工夫を図っていく。	・ゲーム等の普及で外遊びの機会が減りつつあるが、学校では運動の機会を増やし、手軽に行える様々な外遊びを工夫して取り入れてほしい。 ・学校が取り組む外遊びの励行の効果は出てきている。遊びの種類が乏しいことから、学校支援本部でも放課後遊びの企画などを考えている。	児童の遊び方の変容やライフスタイルの変化で一日の運動量が減ってきていることを意識したい。毎年行っている体力テストの結果を考察し、低い値が出ていく動きを取り入れた運動を体育の時間や、体育行事などに工夫して取り入れていく。教員にも子供の多様な活動を工夫するよう指導していく。また、外遊びの機会を学校生活の中で確保し、引き続き児童の体力の向上を図っていく。
	早寝早起き・歯磨き・食事・衛生・新しい生活様式といった健康や食に関する指導を、年間１０回以上行う。	2	3	取組指標は控えめであったが、各学級で給食時を中心に特にコロナに対する衛生・健康指導はよく行ってきた。課題としては、登校時刻が遅い児童が多いことから、「早寝早起き朝ご飯」を中心に規則正しい生活リズムの指導を中心に行っていく。	・オンライン授業に伴い、早寝・早起きの重要性の再確認が大切。アンケートで「まあ十分～」の数値が大幅に上がったことを評価したい。 ・コロナ禍で衛生に関する指導は行き届いている。冬休みで行った歯染め色テストが良かった。	コロナ感染予防を中心に、衛生面や新しい生活様式は児童に定着している。生活リズムに関する指導はオンライン授業に際する際、重要性が増すことから、今後も「早寝・早起き、朝ご飯」を重点的に指導していく。「早寝・早起き、朝ご飯」は家庭の協力が不可欠であることから、家庭への理解啓発も行っていく。
特別支援教育の充実	通常学級と特別支援学級との交流や共同学習を年５回以上行う。	4	3	特別支援学級設置校という特色を生かして、コロナ禍で学校行事や学習活動が例年通りでない中、各学級工夫して行事や共同学習を行ってきた。保護者の値が８割に留まったのは交流や共同学習の情報周知が不十分であることが考えられる。今後はHPや紙面で発信し、特別支援教育への理解を促していく。	・子供同士でも交流の実感が低いようなので引き続き関わってほしい。 ・工夫して交流しているのに周知不足で評価が８割にとどまっている。 ・卒業生や子供を見て偏見や隔たりのなさを感じる。	引き続き交流や共同学習を学年や学級、たてわり班活動などで行っていくとともに、その活動を周知していく。共同学習や交流を行った際、その目的や様子をHP、お便りや発信する担当者を作り、特別支援学級設置校だからこそできる交流の良さを保護者や地域の方々周知する機会を増やし理解を促す。
	個別の指導計画の実現に向けた指導を継続するとともに、アセスから読み取れた課題の解決に向けて適切な支援を行う。	3	3	年間計画にアセス結果を考察する機会を設け、支援へ繋げることを試みた。支援が必要な児童の早期発見、教師の支援のしやすさは児童の実態の把握に繋がった。その反面、課題に対しての具体的な支援の検討や、評価について教職員のスキルアップにはまだ改善が必要である。年間計画にアセスの取り組みについて位置付け、アセスの活用や評価について研修や検討機会を設けていく。	・アセスの結果は必ずしも保護者に知らせるのではなく、児童と教師の間で上手く活用してほしい。 ・子供の人権を守る意味でも子供主観のアセスを実施することは大事。続けてほしい。 ・きめ細やかな指導に感謝している。	「児童主観の適応尺度」を大切にするためにも、来年度も支援計画、評価の時期にアセスを実施し、児童理解や教育支援につなげていく。アセスそのものの機能や活用方法を教職員が研修し考察する機会を設け、より充実した個別支援、学習支援を実現させる。
本校の特色	学校図書館や調べ学習室、市立図書館の蔵書、タブレット端末などのICT機器を活用した授業を行う。	1	3	取組指標は「１」だったが、７割の学級で毎日学校図書館や端末を活用した授業を行っている。残りの３割の学級でも週に３、４回は活用している。児童は８７％の児童が肯定的な回答をしている。毎週木曜は研究夕食会を行っており、端末の活用の仕方について情報共有を行っていることで、その成果が表れた。今後は学校図書館の活用について更に授業改善を行っていく。	・この項目はとても期待している。いろいろな場面での広がりを感じる。 ・図書鑑読はますます進むと思うので、是非図書館活用をお願いしたい。 ・昨年度より今年度の評価が高くなるのは当然。来年度以降の評価が大切だと思う。	オンライン授業を実施することになり、タブレット端末の活用について教員、児童ともにスキルが向上した。今年度研究夕食会で情報共有した端末活用の方法を次年度の授業改善につなげる。学校図書館活用について、次年度の校内研究の研究主題に掲げ、全職員で子供たちが学校図書館を活用し、読書に励んだり、情報活用能力を高めたりできるように授業改善を行う。
	ホームページの更新回数を年間６００回以上行う。	4	4	1000回以上のHP更新と情報発信を行い、発信した内容も内外から高い評価を得た。今後、発信する内容の多様化やニーズに合わせた内容発信などを工夫する。	・よく拝見している。更新多数ありがとうございます。 ・七小の会やななサボについてリンクできればと思う。 ・内容がわかりやすいタイトルが大切。	多くの人に閲覧していただけるようになったため、本校HPを通して七小の会やななサボの活動についてより多くの方に理解・協力を得られるようになる。